

学習院大学史料館 平成二十八年度秋季特別展

君恋きみこふるこころ

— 恋におちる日本美術 —

主催
共催
協力

学習院大学史料館
一般社団法人霞会館
学習院大学文学部哲学科
日本語日本文学科



小野小町図(内膳司濱島家文書「三十六歌仙絵」上巻より)

本展は一般社団法人霞会館のご協力により運営しております

平成28年
10月1日(土)~12月10日(土)

開室日 平日・土曜日 10:00~17:00

入場無料

閉室日 日曜日・祝日
10月21日(金)・22日(土)、11月3日(木)~7日(月)

会場 北2号館1階 学習院大学史料館展示室



1111n 古典の日

語り継がれる、恋ものがたり

古来、先人たちの残した物語や和歌には、色々な恋の形が語られてきました。それは絵巻や屏風、折本、工芸品など、様々に形を変えて今もなお語り継がれています。

本展ではそうした先人たちの「恋」をテーマに、学習院が所蔵する様々な日本の美術品を展示します。『源氏物語』や『住吉物語』など日本を代表する古典文学を中心に、絵画や工芸品に表された数々の恋の物語を紹介いたします。華やかな日本人の恋と美術をお楽しみ下さい。

主な展示品



桜地流水蒔絵文双六盤 (江戸時代)

江戸時代、双六盤は婚礼調度の一つであった。この双六盤には流水に沢瀉・葵・楓文、手掛かりには尾長亀の吉祥文が華やかに蒔絵されている。



銀製雛道具 (江戸時代末期～明治時代)

本物の婚礼調度そのままに精巧に作られた小さな銀製の雛道具。本品は山階芳彦侯爵邸に旧蔵されていたもの。



三十六歌仙額 (江戸時代)

三十六歌仙とは、藤原公任(966～1041)が選んだ優れた歌人たちのこと。本作は6枚の額に、歌仙が描かれた色紙をそれぞれ6枚ずつ貼り付けたもの。京都・勸修寺寄託。



山東京伝画 桜下遊女図 (江戸時代)

山東京伝(1761～1816)は、戯作者として名高いが、もとは浮世絵師。自作自画の黄表紙を次々に刊行し、人気を博した。遊里を扱う作品も多く、遊女を妻としたことでも知られる。



貝桶形流水菊花葵文ボンボニエール (昭和10年)

ボンボニエールは、皇室・華族家等の慶事の際に配られた小さな引出物。作品は北白川宮永久王・祥子妃が結婚後に貞明皇后より下賜されたもの。



住吉物語 貼交屏風 (江戸時代前期)

『住吉物語』は継母に疎まれて追われた姫君が男君に見出され、家族との再会も果たして幸せを手にするという話。本作は奈良絵本『住吉物語』の絵の部分のみを切り出し、屏風に仕立てたもの。

関連企画

第81回学習院大学史料館講座 「王朝物語と絵画」

講師:佐野みどり氏(学習院大学文学部教授・史料館研究員)

日時:10月8日(土)14:00～15:30(開場13:00)

会場:学習院創立百周年記念会館正堂

※入場無料 事前申し込み不要

ギャラリートーク

①10月29日(土)

②11月19日(土)

※いずれも14:00～展示室内にて 事前申し込み不要

お問い合わせ

〒171-8588

東京都豊島区目白1-5-1
学習院大学史料館

☎ 03-5992-1173

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>

